

日向往還 宿場町

まみはら

馬見原フットパスコース (7km)

【コース紹介】

日向往還の宿場町として栄えた馬見原。歴史を物語る多くの史跡、建造物と風情ある石畳が自慢の街並みです。また美しい森や田園風景、五ヶ瀬川の自然も併せて楽しめるのが特長です。なおコースはどこからスタート・ゴールしても、また一部をバスしても自由です。思い思いに馬見原を楽しんで下さい。

【お問い合わせ】

ECO九州ツーリスト 馬見原ガイドステーション
☎ 0967-74-4330 平日 8:30~17:00

1 本八代屋



馬見原きっての豪商「八代屋」、享保年間に八代から移住し造酒・醤油・金融・山林業を営みながら現当主で10代以上となるという名家。馬見原の歴史を刻む貴重な「工藤家文書」がある。

2 火伏地藏



「火伏せ」とは火事を抑える意味。永禄6年(1563)に順正寺からこの地藏堂に遷仏された。造り物のルーツとされる火伏地藏祭は毎年8月下旬に盛大に行われる。

3 田町天満宮の大ケヤキ



江戸時代後半から明治・大正にかけて繁栄を誇った商人のまち「馬見原」の生き証人で町外れの天満宮ひっそりと立つ。推定樹齢400年以上、幹周6m、樹高21m

4 明徳山



この山を「明徳山」と呼ぶのは明治19年(明(めい)十九(とく))に、商家の旦那衆が馬見原の繁栄を祈願してお稲荷様を祀ったことに由来する。古くは山伏の修行の場だったとされる。

5 新八代屋



県下でも稀な土蔵造3階建。主要部分にはケヤキを用いである。材料収集に3年、建築に5年の歳月をかけて明治22年に完成した。馬見原のシンボルであり貴重な文化財。

6 龍専寺



浄土真宗本願寺派の寺として寛永5年(1628)開基される古刹。西南戦役の折には薩軍傷病兵の野戦病院ともなった。本堂天井に描かれた明治20年頃からの鮮やかな天井絵が素晴らしい。

7 揚城址



三田井48塁のひとつ、博多日記にある鞍岡城だとされている。自然の丘で急斜面をうまく利用した立派な山城で阿蘇大宮司家との関わりもあった。現在は秋葉神社として祀られている。

8 本吉野屋の石垣



最盛期には16軒もあった造り酒屋の中でも最大規模の本吉野屋。当時の屋敷跡の石垣は、江戸時代に築かれたままの姿で残っている。馬見原の当時の繁栄ぶりを偲ばせる場所。



ACCESS

熊本駅	60分	阿蘇山	40分	高森町	30分
熊本IC	60分	山都町	25分	山都町馬見原	10分
阿蘇くまもと空港	40分	山都町	20分	五ヶ瀬町	40分
御船IC	40分	美里町	20分	椎葉村	
松橋IC	20分				

12 そよう病院



平成24年11月に移転新築された快適で最新の設備を備えた町立の総合病院です。病院内には地元商店街が運営する売店「まみはら屋」があり、美味しいお弁当やパンなどがあります。

11 下番橋



五ヶ瀬川対岸に渡る三河橋に行く日向往還に架けられた橋で下番所も脇にあった。天保年間に造られ、橋の長さは5.2mと短い、幅は3.2mもあるのは馬車の通行を基準に造られたから。

10 生目神社



かつて豪商であった「榎屋」八田家の別荘地で、明治初年にお嫁入りした人が、守護神として宮崎市の生目神社から分霊し祀られた。五ヶ瀬川、馬見原町中の眺めと紅葉が美しい場所。

9 馬見原橋



清流五ヶ瀬川に架かる橋で上が車道、下が歩道に分かれている。白く緩やかな曲線が目目をひくウッドデッキの歩道では、涼を求めて佇む人が多い。